2025-2026 WEEKLY BULLETIN
8月7日(木) 第6号
第2510地区 Rotary 札幌東ロータリークラブ

第3132回 例会

本日のプログラム

インターアクトクラブバッジ授与式
米山梅吉論「梅吉くんの夢」 梅澤英行会長

ロータリー活動発展のために～会員増強について～ 本間裕美 会員増強委員長

私の入会は、令和4年11月ですので、現在、3年目となります。

入会3年目の私が、なぜ会員増強委員長に…？と思っているのは、皆さんだけではありません。私自身も、正直驚きました。

でも、よく考えてみれば、会員増強は、ベテラン会員だけが行うものではなく、入会1年目の会員が行ってもよいはずです。むしろ、会員歴が浅いからこそ見えることや、共感できる相手がいるのではないか。そんなふうに考えるようになりました。

今日は、「入会3年目の会員が考える会員増強」について、率直にお話ししたいと思います。

私は、札幌東ロータリークラブで初めての女性会員として迎えていただきました。

あとから聞いた話ですが、入会当時には「女性会員はどうなんだ」という声も一部にはあったようです。でも、私自身は、入会後に女性であることを理由に嫌な思いをしたことは一度もありません。

むしろ皆さんがとてもあたたかく迎えてくださり、最初は緊張していた私に声をかけてくださったり、さりげなく気にかけてくださったり…。そうした関わりの中で、ロータリーという場の「懐の深さ」、「多様性を受け入れる土壌」のようなものを、実感をもって感じてきました。

ロータリーに入って、「入ってよかったな」と思うことはたくさんあります。

まず何より、このクラブに入らなければ、おそらく人生でお話しする機会がなかったような、立派なご経歴をお持ちの方々と、同じテーブルでお話しできること。そして皆さんが決して偉そうにされることはなく、対等に、優しく接してくださること。これは私にとって大きな驚きでもあり、感動でもありました。

また、例会では、クラブの外からゲストスピーカーをお迎えして、普段触れることのない世界の話を聞ける機会があります。ビジネスのこと、地域のこと、社会課題、教育や福祉の現場のこと…。例会のたびに、新しい視点や刺激をいただいています。

さらに、インターアクトクラブの活動をサポートする中で、若い世代の力やまっすぐな思いに触れることができるのも、ロータリーならではの経験です。奉仕という言葉が、決して「押しつける側」のものではなく、「共に動き、共に育つ」関係なのだということを、若い人たちが教えてくれる瞬間がたくさんあります。

こうした経験を通じて私が感じたのは、ロータリーは単なる「奉仕団体」ではなく、人と人が出会い、学び合い、世代を超えてつながる、豊かなプラットフォームであるということです。そして、自分自身がその一員として迎え入れていただいたことへの感謝とともに、「この場に、少しでも貢献したい」という思いも、自然と育ってきました。

だからこそ、この場所を、次の世代にも手渡していきたい。そのためには、「仲間を増やすこと」が必要なのだと、今は強く感じています。

「会員増強」という言葉には、少し堅い印象があるかもしれません。

でも私は今では、“ロータリーに出会ってよかった”と思える人を一人でも増やすこと、それがこの活動の本質だと考えるようになりました。

そして、新しい仲間を迎えることは、クラブにとっても新しい視点やエネルギーを取り込むチャンスです。私のような入会歴の浅い会員にとっては、先輩方の経験や想いに学ばせていただく機会でもあります。

私はまだ入会して3年目で、ロータリーのすべてを理解しているとは言えません。

でもだからこそ、ロータリーの良さがすごく新鮮に感じられましたし、それを周りの人にも伝えていけたらと思っています。

そして、これは私ひとりでできることではありません。

皆さんお一人おひとりが、「この人にロータリーを知ってほしいな」と感じたときに、そっと声をかけてくださること。それが、クラブの未来をつくる力になると信じています。

これからも、皆さんのお力を少しずつお借りしながら、一緒に仲間の輪を広げていけたらうれしいです。

■本日のロータリーソング
君が代、四つのテスト

2025-2026年度
国際ロータリー会長のメッセージ
国際ロータリー会長：フランチェスコ・アレッツォ

よいことの
ために
手を取りあおう